
プリキュアオールスターズ プリキュアの世界に大魔王クッパ降臨

夢原光一

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

プリキュアオールスターズ プリキュアの世界に大魔王クツパ降臨

【Nコード】

N5746Y

【作者名】

夢原光一

【あらすじ】

パラレルワールドを管理する时空管理局の夢原光一、田口仁司、牧原京子の3人が时空管理局が新たに作られたプリキュアの世界の支部に任命された。そして、そこにはプリキュアの世界を征服してマリオを倒そうと企てる大魔王クツパ軍団がいた。はたして、3人はプリキュアとともにクツパからプリキュアの世界から追い出すことができるのか？

第1話 プリキュアの世界へ

数多く存在するパラレルワールド。そのパラレルワールドに時空管理局と呼ばれるパラレルワールドを管理する組織である。

その管理局のとある部屋に3人の男女がいた。

「???」「え！今なんと言いましたか？」

男がそうつぶやいた。彼の名前は、夢原光一。この小説の作者であり時空管理局員の一人である。

「???」「君達にプリキュアの世界の支部に任命する。そして、夢原君は、その支部長長官を任せる」

夢原にそう言うのは、時空管理局の最高責任者でありトップでもある時空管理局局長、オタバである。

「???」「局長。何故、僕らにプリキュアの世界の支部に任命したんですか？」

オタバにそう聞くのは、時空管理局員であり夢原の親友である田口仁司である。

オタバ「ここ最近。プリキュアの世界では年々プリキュアが誕生しているのは知っているよな」

「???」「それは、もちろんです」

そう答えたのは、時空管理局員の牧原京子である。

オタバ「正義のヒーローが増えていくのは実にうれしいことだが、オールスターで敵を対処するとなくなかなか機能しないんだ。リズムフラワーの時がいい例だ」

オタバが夢原達にそう言う。

オタバ「そこで、会議の結果。プリキュアの世界に新たに時空管理局の支部を置くことにした。そして、管理局内でよく働いたお前達に任せることになったんだ」

オタバがそう言う。

夢原「分かりました。支部長になったからには、職を全ういたします

す」

夢原がオタバにそう言う。

オタバ「頼んだぞ夢原」

そう言うってある紙を夢原に渡す。

田口「局長、これは何ですか？」

オタバ「これは、支部があるところの地図だ。それと、プリキュアたちにあつたらその支部に集結させてもらいたまえ。あとは、支部のやり方は、君達に任せる。われわれは、君達のやり方には一切文句を言わないと言っておこう」

オタバが夢原達にそう言う。

牧原「でも、プリキュアが承知するでしょうか？」

オタバ「承知するよ。妖精の国々には許可をもらっておる。ほら」

そう言うってオタバは、6枚の紙を夢原達に見せる。

田口「ホントだ」

田口がそれを見てそうつぶやいた。

オタバ「それと、これはまだ未確認な情報だがあるパラレルワールドの世界の悪の組織がプリキュアの世界に進入したとの情報がある。もし、本当なら全力でプリキュアの世界を守ってほしい！」

オタバがそう言う。

夢原「了解いたしました！」

田口「全力でプリキュアとともに世界を守ります！」

牧原「私の斬鉄剣で敵を成敗します」

夢原、田口、牧原がそう言う。

オタバ「任せたぞ。お前達」

そう言うって、3人は局長室をあとにした。

夢原「よし、準備完了！」

夢原は、支部に持って行く荷物をまとめた。

夢原「久々にお前の出番だぞ。ハンマー」

夢原が愛用のハンマーにそう言う。

田口「おーい、光一。そろそろ、出発するぞ」

夢原「はいよ」

そう言つて夢原は、荷物を持って部屋を出て行く。

夢原「それにしても多いなお前の荷物」

夢原は、田口の荷物の量に驚く。

田口「当たり前だ。実験器具や発明する専用の機械は必ず持つていくんだ。俺は管理局員であるが同時に開発科学部の研究員だぞ」

田口が夢原にそう言う。

牧原「遅いわよ、二人とも」

牧原が二人にそう言う。

夢原「お前も多いな、荷物」

牧原「当たり前よ。女の私には、服と化粧は欠かせないからね」

牧原が二人にそう言う。

田口「とりあえず、この時空転送マシンでプリキュアの世界へ行くぞ」

田口がそう言う。

夢原「でも、大丈夫かこのマシン？噂だとかなり調子がよくないって聞くが・・・」

夢原が心配そうに言う。

田口「心配するな、俺が昨日点検した時は異常はなかったぞ」

牧原「そうだといいいけど・・・」

牧原がそう言う。

田口「それでは、プリキュアの世界に出発！」

そう言つて時空転送装置のマシンを起動して田口が一番乗りで出発した。

牧原「それ！」

続いて牧原もマシンに飛び込んでいく。

夢原「新たな世界へ冒険か」

そう言つて夢原が飛び越えた。

時空管理局3人の物語がここに幕を開けた瞬間であった。

第1話 プリキュアの世界へ（後書き）

・ 次回は、いよいよプリキュアの世界へ。そこで待ち受けていたのは・

第2話 到着したが・・・

時空管理局局員の夢原光一、田口仁司、牧原京子は、無事にプリキユアの世界に到着した。

夢原「ここが、プリキユアの世界か」

牧原「私たちの新しい拠点場所だね」

夢原と牧原がそう言う。

夢原「ところで、ここはどこなんだ？」

夢原は、そう言いながら辺りを見渡すと遊具と自然がたくさんあった。どうやらここは公園らしい。

牧原「ねえ、仁司。ちゃんと、目的の場所の近くに転送したのよね」
牧原がそう言う。

田口「当たり前だろう、サンクルミエール学園の近くに転送したんだから」

田口が牧原にそう言う。

夢原「でも、ここどう見ても周りに学校らしき建物はないぞ」

夢原が田口にそう言う。

牧原「やっぱり、あの時空転送マシンの調子が悪いって言うつわみは本当だったのね」

牧原がため息をつく。

田口「とりあえず、街の人にサンクルミエール学園はどこか聞いてみようぜ。そうしないとこの地図が役に立たないからな」

田口はそう言いながら紙をフリフリする。

その時だった。

ドカーーーーン

牧原・田口「!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!」

夢原「なんだなんだ!!」

突然の爆発音に驚く3人。

田口「あっちからだ!!」

そう言つて田口は、爆発音が聞こえた場所へと向かった。
もちろん、夢原と牧原も後を追うようについていった。

3人が爆発音が聞こえた場所に着くと

「???? はあ!!!!」

「???? おりゃ!!!!」

謎のコスプレを着た少女たち4人が怪人と戦っていた。

田口「何だ、この世界の人たちはコスプレが好きなのか!？」

田口がそう言つ。

牧原「あ、光一。あいつは!」

牧原が指をさした先には、外見はカメようだが、2足歩行で立ち頭にヘルメットを被つて無数のハンマーを持つ、ハンマーブロスが×10匹いた。

夢原「ハンマーブロス!」

パラレルワールドの1つ、マリオの世界にしかないハンマーブロスが何故ここにいるのか考え始める夢原に・・・

「????」そのお三方!!!ここは危険です!!!早くに逃げてください!!!」

ピンク色の髪型の少女が夢原たちにそう言つ。

田口「どうする夢原?」

夢原「もちろん、やるさ」

牧原「だろっね」

そう言つと3人は怪人に向かって歩いていく。

「????」なっ何やってるんですか!!!」

「????」逃げなさいっば!!!!」

夢原「心配するなお嬢さん方」

夢原が4人の少女にそう言つ。

夢原「さて、ハンマーブロス。今度は、俺たちが相手だ!」

そう言つて夢原は、ハンマーを、田口は、愛用のマグナムを、牧原は、斬鉄剣を抜き戦闘態勢をとる。

夢原「行くぞお前達！」

そう言つて夢原と牧原は、ハンマーブロスたちに飛び掛る。

少女SIDE

???「な、何ですか!? あれは?!」

私たちが戦っている所に男の人がやって来て私たちが逃げると言っていた所で、男の一人がハンマーを、もう一人の男は銃を、女の人が剣を取り出した。

???「ね、何あれ?(汗)」

???「わ、私に言われても(汗)」

田口「心配するな、俺達はこう見えて強いぞ」

私たちの隣に銃を持った男の人がいた。

???「あなた達は一体・・・」

田口「そのことならあとでじっくりに話してやるぜ」

???「は、はい・・・」

私たちはこの人と一緒に二人と怪物の戦いを見ていたのです。

- ナレーション -

戦闘態勢をしてとびかかる牧原と夢原。

しかし、ハンマーブロス達はささず避けた。

ハンマーブロスA「誰なんだ、貴様らは！」

ハンマーブロスB「我々、クツパ軍団と知つての所業か！」

ハンマーブロスが夢原と牧原にそう言う。

夢原「(クツパ軍団。なるほど、ハンマーブロスがここにいるのも納得できるな)」

心の中でそうつぶやく夢原。

夢原「ファイアハンマー！」

そう言つた瞬間、ハンマーから炎が飛んできてハンマーブロス達に

当たる。

ハンマーブロスC・D「これでも食らえ！」

ハンマーブロスたちが無数のハンマーを牧原に向かって投げてきた。

牧原「ていやー！ー！ー！ー！ー！！！！！」

そう言つて牧原が斬鉄剣を構えてハンマーを斬り始める。

牧原「また、つまらないものを斬ってしまったわ」

某キャラの台詞を言った瞬間、ハンマーが粉々になった。

ハンマーブロスE「なんだ、こいつらは！」

ハンマーブロスF「このままじゃあ、全滅だ！一旦引くぞ！」

そう言つてハンマーブロス達は逃亡を始めた。

夢原「逃がすか！」

そう言つて夢原が追いかけて始めようとするが・・・

ハンマーブロスの一人がけむり玉を投げた。そして、煙が晴れた時には、ハンマーブロスはすでにいなかった。

夢原「くそっ！逃がしたか！」

田口「何やってるんだよ夢原。お前のせいで俺の出番がなかったじゃないか」

そう言つて田口は、コスプレ少女たちが夢原の近くにやって来た。

???「あの〜、すいません〜？」

夢原「うん？」

コスプレ少女の一人が夢原に尋ねてきた。

夢原「何？どうした？」

???「あの〜、いろいろと話さなければいけませんね？」

田口「あ〜、確かにそうだな」

夢原と田口は彼女の言葉に賛同することに決めた。

そして、場所は変わって植物園つと呼ばれる施設に場所を移した。

???「時空管理局ですか？」

夢原「ああ、そうだ」

夢原がそう言う。

さて、このピンクつもと、彼女の名は花咲つぼみ。さつきまで変身していたのは、キュアブロッサム。そして、もう一人変身していたブルーの女の子は、キュアマリンこと来海えりかと言う。ハートキャッチプリキュアの一員である。

田口「それにしても、君達がプリキュアとは・・・」

牧原「正義感あるのね」

牧原がつぼみとえりかにそう言う。

つぼみ「ところで、時空管理局の人がどうしてここに来たんですか？」

夢原「それなんだが、実は局長の命令でこのプリキュアの世界に時空管理局の支部を作ってた、その支部に派遣されたのが俺達なんだ」
夢原がそう言う。

えりか「それにしても、変身せずに強いなんて変わっていますね」

牧原「そうかしら？っていうか、貴女ね！」

流石にさっきの言葉に少し半ギレとなる牧原である。

「???」「えりか、そんな事を言ったら駄目だよ？」

「???」「そうよ、この人達に失礼でしょ？」

さて、えりかに注意したこの二人は、明堂院いつきと月影ゆりと言う。実はこの二人もプリキュアなのである。なお、プリキュアファンなら知っての通り月影ゆりはプリキュアの最年長で高校生のプリキュアである。

つぼみ「それより、どうしてこの世界に支部を作ることになったんですか？」

そう尋ねてくるつぼみ。

夢原「実は、今プリキュアは、現在確認されているだけで24名いる。その24名を我々時空管理局が統括することになったんだ」

4人「えーーーーーー！！！！！！！！」

それを聞いた瞬間、4人は大声を出す。普段クールであるはずのゆりも大声を上げるほどの衝撃発言であった

いつき「な、なんで、プリキュアが統括されるの!」

いつきが夢原にそう聞く。

夢原「局長の話によるとプリズムフラワーの時にいつもとは違うチームのプリキュアが混合して戦ってかなり苦戦した。このままではダメだと決断してプリキュアを統括することになったんだ」

田口「だが、安心して。統括と言っても別にこちらからあーやれこーやれと言った命令はしないから」

田口と夢原がそう言う。

つぼみ「よかった」

それを聞いて安心するつぼみ。

牧原「ところで、サンクルミエール学園はどこあるか知らない？この場所から歩いたところに新しい支部があるんだけど・・・」

牧原がつぼみに聞く。

つぼみ「この学校。私達が住む希望ヶ花市の隣の隣の町のその隣の隣の町にある学校だわ」

田口「遠いのか近いのかわからないな」

田口がそう言う。

牧原「それよりどうするのよ仁司！希望ヶ花市の隣の隣の隣の隣の隣の隣の町だっというじゃない！」

牧原が田口にそう言う。

夢原「仕方がないな、そこまで行くか」

夢原がそう言うって立ち上がり植物園を出て行く。

田口「邪魔したな」

田口がそう言うって夢原を追うように植物園を出て行く。

牧原「そうだ！もし、暇なら今週末基地に来てもらえるかしら？」

牧原がつぼみ達にそう言う。

えりか「わかりました」

そう言うつと地図を渡して牧原は笑顔で二人のあとを追っていった。

3人は、基地を目指して歩いていった。

第2話 到着したが・・・（後書き）

ハートキャッチ組に出会った夢原達。次回は、二組のプリキュアと遭遇します。

登場人物（ハートキャッチ組編）（前書き）

前回登場したハートキャッチプリキュアたちを紹介します。

登場人物（ハートキャッチ組編）

名前／プリキュア：花咲 つぼみ／キュアブロッサム

出身校：私立明堂学園の2年生

部活動：ファクション部

一人称：私

ハートキャッチ組のリーダー。元々は、希望ヶ花ではなく鎌倉で育ち、中学の時に引っ越して来た。花屋の影響から、植物には詳しく、素直且つお人好しで、礼儀正しい性格。出始めの頃は、史上最弱と呼ばれていたが今はそうでもないらしい。年上年下、同年関係なく敬語をよく使うがえりかといつきだけは本人の希望で呼び捨てで呼んでいる。お婆ちゃん子なので言葉遣いが古めかしくなることがあり、四字熟語やことわざをよく知っている。また学校の成績はかなり良い方である（特に国語と理科が得意）。歴代のプリキュアのリーダーと比べるとはるかに頭が良いが逆に運動は苦手で高所恐怖症という弱点を持っている。また時々、メガネをかけることがある。口癖は「私、堪忍袋の緒が切れました！」である。

CV：水樹奈々（代表作：劇場版ポケットモンスターベストウイッシュ1作目・ビクティニ役など）

名前／プリキュア：来海 えりか／キュアマリン

出身校：私立明堂学園の2年生

部活動：ファクション部

一人称：あたし

つぼみの親友でハートキャッチ組の一人。姉がカリスマモデルの影響からファクションに詳しく、裁縫や服のデザインの腕前は高く、一目で相手のスリーサイズを言い当てることもできる。学園でもファクション部の部長として皆を引っ張る。また、時々髪型を変えることがある。身だしなみにも気遣うが、オンとオフとの落差が激し

くだらけているときには寝ぐせのままにしていることもある。メンバーの中で感情によって表情が非常に激しく変化するムードメーカー的存在。元気一杯なお節介焼きで、その行動力で相手を強引に引っ張ることが多い。基本的に前向きで明るいマイペースな性格だが、落ち込むことも多い。また「言いたいことは言葉にしないと自他共に伝わらない」という考えを持つ主義で、他人と心の垣根を作らない。反面、内向的な相手の感情に合わせることは苦手で思ったことをすぐ口に出して相手を傷つけることもしばしばある。さらに、苦手なものは勉強と虫で私生活は少々だらしない。おまけに身長に関することを言われることもしばしばある。口癖は「海より広いあたしの心もここらが我慢の限界よ！」である。

CV：水沢史絵（代表作：おおきく振りかぶって　～夏の大会編～の栄口の姉役など）

名前／プリキュア：明堂院　いつき／キュアサンシャイン

出身校：私立明堂学園の2年生

部活動：フアッション部

一人称：僕（変身時は私）

ハートキャッチ組の一人で私立明堂学園の生徒会長で理事長の孫娘、そして、生徒会長を務めている。実家は明堂院流古武道の道場で、家族には他に両親と兄がいる。武術の達人かつ成績優秀で、文武両道を体現している。女子ではあるが、病弱な兄の代わりに明堂院流の跡継ぎとなるため、学園生活では真夏でも白い男子用の学生服を着用して男装もしてつぼみは初めいつきが女子とは気づかず行為を持ったこともある。穏やかな性格の持ち主で、常に笑顔を絶やさない。兄を生涯守ることを誓い、次期当主および道場師範代という重圧に負けない強い心を持っている。しかし可愛いものに目がないという年相応の少女らしい一面もあり、タンスには女の子らしい趣味を隠していたりする。格闘術はプリキュアの中で一番である。しかし、つぼみのおかげ次第に制服が男子生徒用より女子生徒の制服

を着ており、髪も少し長くなり女の子らしくなったが毎日の鍛錬は怠っていない。口癖は「その心の闇、私の光で照らしてみせる！」である。

CV：桑島法子（代表作：ケロロ軍曹の2代目日向冬樹役とデジモンクロスウォーズの天野ネネ役など）

名前／プリキュア：月影 ゆり／キュアムーンライト

出身校：私立明堂学園高等部の2年生

部活動：なし

一人称：私

ハートキャッチ組の一人で歴代の現役のプリキュアの中では、最年長かつシリーズ初の高校生プリキュアであり、「1人目でありながら4人目」のプリキュア戦士である。聡明かつ物静かな性格で最年長ながら非常に大人びてクールな子でミステリアスな雰囲気を出している。周囲から特別扱いされているももかに分け隔てなく接し、ももかの数少ない友達で、モデルの仕事で授業を欠席しがちなももかのためにノートの写しを渡したり、一緒に弁当を食べたりと色々と気遣いを見せる。学業の成績は常にトップ。ダークプリキュアとの戦いでパートナーである妖精コロンや変身能力を失うなど心の傷で一時は戦線離脱し、つぼみやえりかから戦闘への参加や指導を懇願された際も断っていたがプリキュアの先輩としての辛辣な発言も多く、つぼみとえりかの危機感の無さにいら立ちを覚えたり、ポプリを危険に晒したいつきを厳しく咎めたりしている。後に変身能力を取り戻した際は先輩として先頭に立ち、他のメンバーを鼓舞させ、戦闘時には指示を飛ばすなど、司令塔としての役割を担う、実質的リーダー的存在である。また、変身しなくても身体能力は高く、敵を蹴り飛ばしたり攻撃を受け止めたりできるので夢原達はもちろん歴代のプリキュアも驚くほど。サバーク博士が実の父と知り心を閉ざしたりその父がデューンに殺された際には復讐鬼になりかけるも、つぼみの説得を受け復讐を乗り越えた。関わった人物との

悲しい別れを経験する等、全編通して幸せとは縁が薄かったが、苦境からは決して逃げなかった。なお、父が生み出したダークプリキユアが実は実の妹だと知ることとなる。口癖は「全ての心が満ちるまで、私は戦い続ける！」である。

CV：久川 綾（代表作：美少女戦士セーラームーンの水野亜美ノセーラーマーキュリー役など）

第3話 クリボー軍団襲来と二組のプリキュア

基地が近くにあるサンクルミエル学園を目指してバスからバスへと乗り換えながら向かっていった夢原達であったが・・・

田口「なあ、光一。腹減ったよ〜」

牧原「私も〜」

夢原「そういえば、お昼だもんな時間帯は」

夢原がそう言うところからかわいい匂いがして来た。

田口「なんだ、この匂いは！」

夢原「あっちだ！」

そう言つて夢原達は匂いがする方角へと走っていった。

夢原「ここか！」

夢原が滑り込むとそこは、公園であるがその一角にドーナツ屋とたこ焼き屋があった。

牧原「ドーナツにたこ焼きだわ！」

夢原「よし、食うぞ！」

そう言つて3人はドーナツ50個、たこ焼き10人前を注文してパクパクと食っていた。

田口「美味しい！このドーナツと炊く焼き最高だぜ」

「???」そうだろう、やっぱりおじさん、才能向いてるかも。グハッ
「！」

「???」相変わらずですねカオルさんは

男性の様子に女性がそう言う。

夢原「食った食った」

田口「ご馳走様」

牧原「お粗末様」

3人はドーナツ屋とたこ焼き屋を離れる。

その後は、目的の場所、サンクルミエル学園に向かうためバスへ向かった。

夢原「腹ごしらいも済んだことだしバス停へ行きますか」
ポーン

夢原は歩いてる最中、ツインテールの少女とぶつかる。

「???」あ、すいません」

夢原「だ、大丈夫だ。気にするな」

「???」そうですか」

夢原「気づけて歩くんだぞ」

「???」はい。(あ、早く急がないとせつな達やなぎさ達の待つて
いる場所へ行かないと)」

そう心の中でつぶやいた少女は走り去って行った。

牧原「なにしてるのよ光一」

夢原「すまんすまん」

牧原にそう言う夢原。

その時だった。

「???」うわあー!」

突如悲鳴声が聞こえてその場所へ行くとそこには、二人の白い服の
男が倒れる。

夢原「大丈夫か!」

夢原が二人に近づこうとした瞬間だった。

シューン

何かが夢原目掛けて飛んできた。

しかし、夢原は間一髪で避けた。

夢原「誰だ!」

「???」俺らの技を避けるとは・・・」

「???」ただもんじゃないな」

後ろから声が聞こえて夢原達は後ろを振り向くと・・・

3人「あ、お前達は!」

そこにいたのは、マリオシリーズでお馴染みのクリボー達だった。

しかも、クリボーだけでなくパタクリボーやトゲクリボーと合わせ
て50匹近くのクリボーたちがいた。

田口「何で、クリボーがここにいるんだ！しかもこんなにたくさん！？」

びっくりする田口。

クリボーA「俺達のこと知っているようだな！」

パタクリボーA「何者かは知らないがここは、俺達クツパ軍団の縄張りだ！」

トゲクリボーA「そこにいる元ラビリンスのウェスターとサウラーのように痛い目に遭いたくなければ早くここから立ち去りな」

クリボー達が夢原にそう言う。

夢原「嫌だね」

田口「酷い目に遭った人を見捨てるなんてできないね」

牧原「だから貴方達を」

3人「成敗してやる（わ）」

3人がもじってそう言うってハンマーとマグナム、斬鉄剣を取り出した。

夢原「行くぜ！」

そう言うって3人は、クリボー達に飛び掛った。

クリボー達は、夢原達に攻撃してくるが夢原達がそれを退けて倒して行くが数が多すぎてとてもじゃないがきりが無い。

田口「一体、何匹いるんだよ」

ダンダンダンダン

田口がそう言いながらマグナムを撃つ。

夢原「こいつら、雑魚だけど数は多いほうだぞ」

夢原がそう言う。

牧原「きゃあ！」

牧原が悲鳴を上げる。クリボー達を斬って斬ってきりまくるっていがトゲクリボーが不意打ちで牧原の斬鉄剣に当たりその振動で刀が抜けてサウラーとウェスターの所に落ちた。

牧原「しまった！」

斬鉄剣以外に攻撃技を持っていない牧原は絶体絶命に追い込まれた。

田口と夢原は助けに行きたかったがクリボー達の集中攻撃で助けに
かれない。

トゲクリボーB「死ね！」

牧原「っ！」

牧原が諦めかけた次の瞬間！

トゲクリボーB「ぐあー！」

何かのピンク色のビームが、トゲクリボーに直撃した。

夢原「なんだ、今のは！」

夢原、田口、牧原は後ろに振り向くと、そこには7人の少女がいた。

牧原「誰なの君達は？」

「???」ピンクのハートは愛ある印！もぎたてフレッシュ、キュア

ピーチ！」

「???」ブルーのハートは希望の印！つみたてフレッシュ、キュア

ベリー！」

「???」イエローハートは祈りの印！とれたてフレッシュ、キュア

パイン！」

「???」真っ赤なハートは幸せの証！熟れたてフレッシュ、キュア

パッション！」

ピーチ「Let's・・・」

ピーチ・ベリー・パイン・パッション「っっっプリキュア！」

「???」光の使者、キュアブラック！」

「???」光の使者、キュアホワイト！」

ブラック・ホワイト「ふたりはプリキュア！」

ホワイト「闇の力の僕達よ！」

ブラック「とつととお家に帰りなさい！」

「???」輝く命、シャイニールミナス！光の心と光の意思、全てを

一つにするために！」

夢原「プリキュア!？」

田口「ハートキャッチ組以外をこつも簡単に見つけるとは・・・」

夢原と田口がそう言う。

パッション「サウラー！ウエスター！」

パッションは二人に駆け寄る。

パッション「しっかりして」

二人を揺らしながらパッションそう言う。

ホワイト「どうやら気絶しているようですね」

ホワイトがそう言う。

ルミナス「とりあえず、先にあちらを倒しましょう」

ピーチ「そうだね！その貴方達も、私達と一緒にあいつを倒しましょう！」

田口「OK」

パッション「ねえ、これ貴女でしょ？」

パッションの手には斬鉄剣があった。

牧原「ありがとうパッション」

牧原が礼を言う。

牧原「行くわよ、とりゃ！」

そう言うって牧原がクリボー達を切っていく。

牧原「また、つまらないものを斬ってしまった」

そう言った瞬間クリボーが倒れていく。

クリボーB「プリキュアを倒せ！」

クリボー達が一斉にピーチ、ベリー、パイン、パッション、ブラック、ホワイト、ミルナスを襲い掛かる。

ピーチ・ベリー・パイン・パッション・ブラック・ホワイト「」

「」はあーあ！「」

しかし、いとも簡単にクリボー達は倒されていく。

クリボーC「このままだと全滅だ！」

トゲクリボーC「ここは、一旦ひこう」

パタクリボーB「そして、クツパ様に報告だ！」

そう言うってクリボー達は全滅する可能性が高くなったので全員逃げていった。

ブラック「逃げって行ったわ」

ホワイト「そういえば、あの怪人。確かクツパって言っていたわ
パイン「もしかして、そのクツパって言う奴の部下なの？」
ベリー「その可能性は高いわね」

パッション「ところで、貴方達は何者なの？」

田口「俺か？俺は、時空管理局員の田口仁司だ」

牧原「同じく、時空管理局員の牧原京子よ」

夢原「同じく、時空管理局員の夢原光一だ。そう言う、お前達は？
夢原がそう言うのとピーチ達は変身を解く。

「私に九条ひかり。ひかりって呼んで下さい。」

「私に美墨なぎさ」

「雪城ほのかです。よろしくお願ひします、夢原さん、牧原

さん、田口さん」

「桃園ラブです」

「蒼乃美希よ」

「山吹祈里です」

「私は東せつな。それより早く二人を運ぼう」

夢原「そうだな。よし、男の俺と田口がおぶっていくよ」

そう言うて夢原と田口がサウラーとウエスターをおぶり占い館に向
かった。

そして、占い館到着後、二人をベットに寝かして10人はくつろい
でいた。

ほのか「あの、夢原さん。時空管理局ってなんですか？」

せつな「時空管理局って言うのは、パラレルワールドを管理と監視
し、また、他の世界の人が別の世界を征服することを阻止するこ
を目的として作られた組織よ」

夢原の代わりにせつながそう答えた。

牧原「せつなちゃん、時空管理局のことよく知っているのね」

ラブ「元々、せつなはラビリス出身だから」

田口「ラビリス出身なんだ」

登場人物（フレッシュ組&マックスハート）（前書き）

今回はフレッシュ組とマックスハートを紹介します。

登場人物（フレッシュ組&マックスハート）

マックスハート

名前/プリキュア：美墨 なぎさ/キュアブラック

出身校：ベローネ学院女子中等部の3年生

部活動：ラクロス部

誕生日：1990年10月10日生まれの天秤座・血液型はO型。

マックスハートのリーダー。茶髪のウルファットの入ったショートヘアで性格は明るく活発、無鉄砲で多少おつちよこちよい。スポーツ万能であるが何故かウィンタースポーツは苦手である。また、大食いで、好物はチョコレートとたこ焼き、嫌いな物は玉葱^{たまねぎ}。男勝りでやや破天荒な行動とそのボーイッシュな外見や性格のおかげで、女子からはラブレターをもらうほどの人気がある。恋愛に関しても年相応の少女らしく繊細性がある。勉強嫌いで、ことわざを誤用することが多く、つぼみ達によく突っ込まれる。音頭を聞いて無意識に踊ってしまったり、時代劇に関して妙に詳しくたりなど、女子中学生としては趣味が若干オヤジ寄り。口癖は「ありえな〜い」である。

CV：本名 陽子（代表作：機動戦士ガンダム00のスメラギ・李・ノリエガ役など）

名前/プリキュア：雪城 ほのか/キュアホワイト

出身校：ベローネ学院女子中等部の3年生

部活動：科学部

誕生日：1990年4月4日生まれの牡羊座・血液型B型。

長い黒髪を一部上頭部で束ねている。お嬢様育ちのおっとりした性格で礼儀正しく、つぼみと同じくある程度親しい人間も「さん」「くん」付けの苗字で呼んでいる。大らかで真っ直ぐな分やや天然ボ

ケな一面もあるが、悪事をはつきり悪いと言える芯の強さを持ち合わせ、強盗に説教をして改心させたことすらある。身長はなぎさより少し高い。全科目得意で成績は常に学年トップで、よくなぎさが勉強を教えてもらいに来る。特に理系学問が好きである。そのため、周囲から「つんちくじょおう 蒔蓄女王」とあだ名されるほどの博学かつ好奇心旺盛で、不思議な事物には率先して首を突っ込み、なぎさを困惑させることがある。だが、日常生活ではなぎさの大胆な行動に振り回されることも多い。端麗な容姿と前述の性格から、男子から月に1・2通ラブレターをもらうほど人気が高い。夢原から時空管理局プリキュア支部の科学者に任命されてたくさんの薬や発明を数々の開発を行う。CV：ゆかな（代表作：絶対可憐チルドレンの蓄見不二子役・アマガミSSの七咲逢役など）

名前／プリキュア：九条 ひかり／シャイニールミナス

出身校：ペローネ学院女子中等部の1年生

部活動：なし

誕生日：1992年9月9日生まれ、血液型AB型。

黄色の髪を右から三つ編みにして左へと回したお下げ。性格は優しく謙虚でやや引っ込み思案。一見大人しそうだが芯は強く、口調も常に丁寧であるが、時折気品に満ちた口調になることもある。また、周囲の行動に対して苦笑するシーンが多い。成績は優秀だが少々常識のズレた天然な部分や抜けたところもあり、やや不思議な雰囲気醸し出している。アカネの「いとこ」として、オープンカフェ形式のたこ焼き移動販売車「TAKO CAFE」の手伝いをしながら同居している。なお、正体は元クイーンである。戦闘では、ほとんど後方支援に回るため敵に攻撃することは滅多にない。

CV：田中 理恵（代表作：ハヤテのごとく!のマリア役など）

フレッシュ組

名前／プリキュア：桃園 ラブ／キュアピーチ

出身校：公立四つ葉中学の2年生

フレッシュ組のリーダー。ビッグテール風の髪型が特徴で幼なじみの美希・祈里とは学校こそ違うものの、家族ぐるみでのつきあいが続いている。友人の失恋に大泣きするなど、自分のことよりも他人のことで熱くなれる、人懐っこく天真爛漫で元気いっぱいな女の子。思い込んだら一直線なタチで、裏表のない純粋な性格の持ち主。反面、その純粋さ故に傷つきやすく、深く悩んだり落ち込んでしまうこともしばしば。また人と喧嘩になると意地を張ってしまう一面もある。勉強やスポーツは得意でないが、踊りが何よりも好きである。また、小さい頃から家事を手伝っていたため料理が得意で、ハンバーグが十八番であり、好物でもある。一方でニンジンが苦手で、裁縫ほうも下手。口癖は「幸せゲットだよ！」である。

CV：沖 佳苗（代表作：デジモンクロスウォーズ 時を駆ける少年ハンターたちの天野ユウ役など）

名前／プリキュア：蒼乃 美希／キュアベリー

出身校：芸能学校の私立鳥越学園中等部の2年生

ラブと祈里の幼馴染で腰まであるロングヘアが特徴。4人の中で一番背が高い。ラブからは普段「美希たん」と呼ばれている。「どんなピンチの時でも希望は忘れない」という強い信念を持つ。スポーツ万能である上に母譲りの端麗な容姿を持ち、周囲からは羨望の目で見られる。世界に名を轟かせるファッションモデルになることが夢で、現在も読者モデルとして活躍しており、才覚を見せつつある。ダンスはシェイプアップを目的として始めたが、その楽しさを知って真剣に取り組むようになっていく。

4人の中では一番大人びており、取り乱したラブを叱責するのは主に彼女である。勝気な性格に似てかなりの自信家で、あらゆる物事を完璧にこなせる様にするための努力は怠らない。その一方で自分の弱みを見せたり、言い訳を極端に嫌う。用心深い一面も持つ。幼

少時のトラウマからタコが苦手で、たこ焼き屋の看板を見ただけでも取り乱す。そのため、ひかりのいとこであるアカネが経営している、オープンカフェ形式のたこ焼き移動販売車「TAKO CAFE」を見た瞬間逃亡することもしばしばある。口癖は「あたし完璧！」である。

CV：喜多村英梨（代表作：ズッコケ三人組の安藤圭子役など）

名前／プリキュア：山吹 祈里／キュアパイン

出身校：私立白詰草女子学院中等部の2年生

ラブと美希の幼馴染で肩まである髪の一部を右上で結んだサイドポニーの髪型をしている。ラブ達からは「ブツキー」と呼ばれている。4人の中では一番背が低い。ラブ達を「ちゃん」付けで呼ぶ。せつなやタルトに対しては当初「さん」付けだったが、親しくなってきたら「ちゃん」付けになった。

親に似ておっとりとした性格でのんびり屋だが、自分に自信が持てず、少々引っ込み思案な所がある。そんな内向的な自分を変えようと、ラブ達の結成したダンスユニットに参加することを決意した。勉強は得意だが、天然気質の若干ズレた感性を持つ。裁縫が得意でクローバーのメンバーが練習時に着用しているジャージは彼女が作った。役に立つものをいれた鞆を持ち歩いている。そのため、夢原達や他のプリキュア達も大助かりしている。動物が大好きで、将来の夢は獣医になり実家の動物病院を継ぐこと。自身のピックルンであるキルンを介す事で動物の言葉を理解出来る。3歳の時に噛まれたトラウマからフェレットが苦手で、当初はタルトに近づくことさえ出来なかったが、ある事件ののちに克服し、彼とも親しくなった。口癖は「私、信じてる！」ある。

CV：中川 亜紀子（代表作：金田一少年の事件簿の七瀬美雪役など）

名前／プリキュア：東 せつな／キュアパッション

出身校：四つ葉中学校の2年生

元ラビリンスの幹部・イースとしてラブたちと敵対していたが、途中で和解するが規定の寿命が尽きて死を迎えたが、アカルンの力によりキュアパッションとして転生した姿。髪型は黒髪のセミロング。好きな色は赤。ラブとほぼ同じ位の背丈である。元々はイースが一般人を装う際の仮の姿であったが、プリキュアとして転生した際にこちらが本来の姿となった。ラビリンスから離反した後は桃園家に同居し、四つ葉中学校でラブと同じクラスに通う。最初の頃は、過去の罪に苛まれ、プリキュアとして戦うことを拒んでいたが、ラブ達と共に過ごすことで幸せの素晴らしさを改めて認識し、皆の幸せや笑顔を守るため戦うことを決意する。それに伴って瞳にハイライトが付き、女性的な物腰や笑顔を見せるようになった。また、生真面目で優しく、健気で聡明な性格だが、物事を伝えるのは不器用。勉強やスポーツをそつなくこなし、遠くの物を正確に見られる視力など幅広い優秀さを持つが、ピーマンだけは苦手。また、ラブ達の世界の一般常識や流行については疎く、時折天然ボケともとれる言動もある。牧原と夢原がゆりに次いで尊敬している。口癖は「精一杯、頑張るわ！」である。

CV：小松 由佳（代表作：ポケットモンスタークリスタル ライコウ雷の伝説のレディバ役など）

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5746y/>

プリキュアオールスターズ プリキュアの世界に大魔王クッパ降臨

2011年12月9日01時02分発行